

中国地域ニュービジネス特別賞

表彰事業

地域の専門医不足をサポートする「遠隔医療画像診断サービス」

株式会社医療福祉工学研究所

代表取締役 もんでん 門田 あきら 章



受賞理由

山口県内外の医療機関からネットワークを介して送られてくる医療画像を読影診断し、コンサルティングレポートを作成・提供する「遠隔医療画像診断サービス」事業により、地域医療機関の専門医不足をサポートしている。山口大学医学部附属病院に隣接するセンター内には、DICOMサーバー1セットと読影ビューア4セットが設置されている。地域医療機関と接続するネットワークは他のネットワークとは分離された独自のIP-VPN網が構築され、データのバックアップもデータセンターで保管されるなど、万全なセキュリティ体制が確保されている。画像の読影レポートは、山口大学医学部附属病院の専門医が作成するため、医師不足を補うだけでなく、より専門性の高い専門医による診断が可能であり、過疎地であっても、都市部と同質の高度な医療をタイムリーに受けられる。将来的には、子育て中の女性専門医が在宅で勤務することで、女性の活躍の機会が広がることも期待されている。

ポイント

- ・ 大学病院の専門医が読影診断することで、よりスキルの高い専門医の診断が行われており、他の読影機関と比べて優位性が高い。
- ・ 医師不足の地域医療機関に対し、ICTを駆使した遠隔診断システムを活用することにより、都市部と同質の高度な医療をタイムリーに提供している。
- ・ 大学発ベンチャーとして、産学連携・医工連携を積極的に進め、大学内での研究成果を医療福祉機器の開発に役立てている。

事業概要

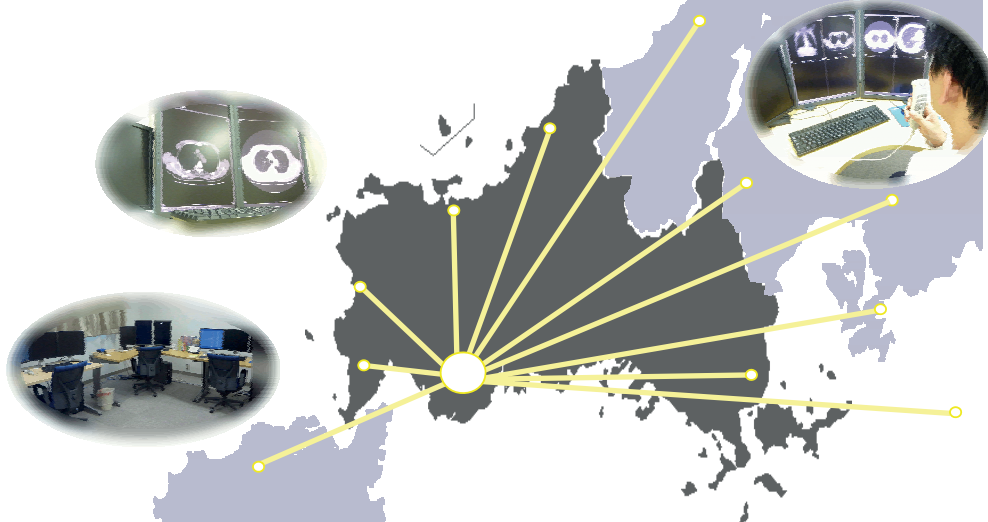
（株）医療福祉工学研究所は、平成16年に医療・福祉分野を中心に山口大学工学部の研究成果を商品化・事業化することを目的に設立された大学発のベンチャー企業である。「遠隔医療画像診断サービス」事業は、平成18年に山口大学医学部・附属病院に隣接した宇部市メデイカルクリエイティブセンターに山口医療画像研究センターを開設し、山口大学医学部放射線医学部門の協力を得て開始した。地方の医療機関にも、CT・MRI等の設備の導入は進んでいるが、医療画像の診断にあたる専門医の確保が困難な状況にあり、このサービスの利用により地域の医療機関でも都市部と同質の高度な医療をタイムリーに受けられることが可能となる。山口県を中心に32の医療機関と契約し、年間約4万件のサービスを行い地域医療へ貢献している。また、医療画像を用いて、新薬の効果判定を実施するビジネスへも挑戦している。

推薦団体

山口県・地方独立行政法人山口県産業技術センター・公益財団法人やまぐち産業振興財団

会社所在地	〒755-8611 山口県宇部市常盤台2丁目16番1号		
T E L	0836-35-1354	U R L	http://www.ibmw.co.jp/
会社設立	平成16年4月	従業員数	12名(平成27年3月31日現在)
資本金	15百万円	売上高	112百万円(平成26年3月期)

山口大学医学部放射線科のご協力を得て、
山口県を中心に遠隔医療画像診断サービス事業を行っています。

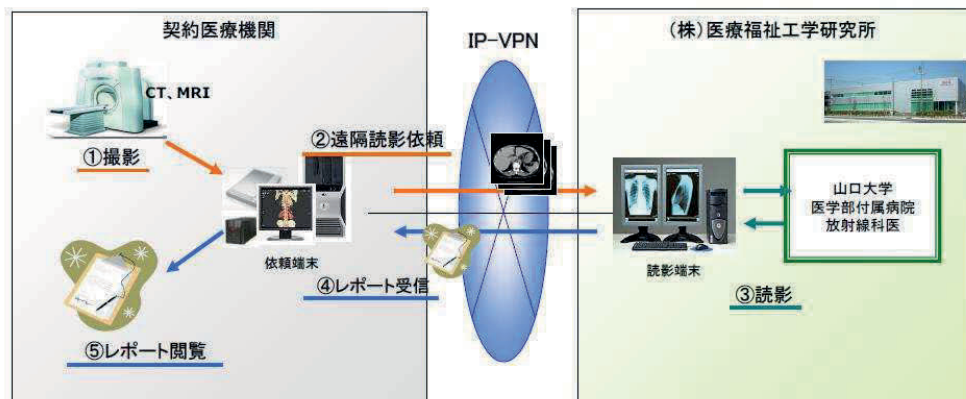


株式会社医療福祉工学研究所は、医療・福祉分野を中心に山口大学工学部の研究成果を商品化・事業化することを目的に設立した大学発のベンチャー企業です。
遠隔医療画像診断サービス事業をベースに地域医療に貢献してまいります。

山口医療画像研究センター
〒755-0068 山口県宇部市東小串 1-1-36 MCC202 号室
株式会社 医療福祉工学研究所

TEL:0836-37-1281
FAX:0836-37-1282
URL:http://www.ibmw.co.jp

● 遠隔医療画像診断サービス事業



(サービスの流れ)

- ①撮影：CT又はMRIなどで画像の撮影を行う。
- ②遠隔読影依頼：撮影した画像を依頼端末に取得し、(株)医療福祉工学研究所へ依頼する。
- ③読影：依頼された画像を元に山口大学医学部放射線科医が読影を行う。
- ④レポート受信：読影が完了したレポートのデータを依頼端末に受信する。
- ⑤レポート閲覧：依頼端末上で完成したレポートを閲覧する。

センターには、DICOMサーバー1セットと読影ビューワ4セットを導入し、ネットワークは他のネットワークとは分離された独自のIP-VPN網で構築し万全なセキュリティを確保し、データのバックアップもデータセンター(社外)で保管しています。